

平成26年度会務総括報告

平成26年度事業ならびに会務運営は、平成25年度第6回理事会において承認（平成26年度定時総会にて報告）された事業計画に基づき執行した。学会運営の透明性、効率性ならびに迅速性を重視して組織改革を検討し平成27年度より実施することを決めた。特に、代表理事直轄委員会を設置して対外的な対応を迅速に行う。また、将来構想特別委員会の答申に基づき、内部評価機能を実現するために学会事業評価委員会を設置する。一方、会員の利便性の向上のために新会員管理システムを検討し、開発に着手した。

福島原発事故による放射能汚染被害に関連して市民に正しく放射線・放射能を理解してもらうために引き続き市民公開講座・セミナーを大宮市、福島市にて開催した。

国際化については、ECR、RSNAに役員を派遣して具体的な連携事業の調査や本学会の広報を行った。また、第2回国際放射線技術科学会議（第2回ICRST）を第42回秋季大会の会期中に併催し、成功裏に終えた。

平成26年度末の正会員数は16,858名であり、平成25年度末の正会員数と比べて少し増加し、引き続き上昇傾向を維持した。学生会員も312名であり、平成25年度末と比べて増加した。また、総会学術大会では4,500人を、秋季学術大会では1,700人を超える多くの会員が参加し、大盛会であった。

会員諸氏の温かいご理解と担当役員・委員の献身的な努力により、学会事業が順調に執行できたことに深甚の謝意を表す。

以下に、平成26年度事業の全般にわたり、その概要を報告する。

1. 学術集会事業；公1

1) 学術大会の開催

(1) 総会学術大会の開催

第70回総会学術大会は平成26年4月10日（木）～13日（日）の4日間、江口陽一大会長のもと開催した。一般研究発表演題は665題、参加登録者数は4,757名であった。

第71回総会学術大会は平成27年4月16日（木）～19日（日）の4日間、平野浩志大会長のもとパシフィコ横浜会議センター他で開催すべく準備を進めた。

(2) 秋季学術大会の開催

第42回秋季学術大会を平成26年10月9日（木）～11日（土）の3日間、小笠原克彦大会長のもと札幌コンベンションセンターにてJRC共催、日本医療情報学会の後援で開催した。研究発表は490題、参加登録者は1,872名であった。

第43回秋季学術大会を平成27年10月8日（木）～10日（土）の3日間、市川勝弘大会長のもと金沢市文化ホールで開催すべく準備を進めた。

(3) 専門分科会プログラム、セミナーの開催

7つの分科会が春秋の学術大会にジョイントして分科会を開催し、教育講演や種々の企画を行った。また、教育委員会、専門分科会、地方部会共催で、画像分科会はCADセミナーと、2回のROCセミナー、1回のDRセミナーを、核医学分科会は核医学技術研修会と2回の核医学画像セミナーを、放射線治療分科会は2回の放射線治療分科会セミナーを、放射線撮影分科会は2回の乳房撮影ガイドライン・精度管理研修会、公開シンポジウム、MRセミナー（上級編）、CTセミナー、2回の救急撮影セミナー、デジタルマンモグラフィを基礎から学ぶセミナーを、計測分科会は医療被ばく測定セミナーを、放射線防護分科会は放射線防護セミナー、市民公開講座を、医療情報分科会は2回のPACS Specialistセミナー、2回のPACSベーシックセミナーを行った。

(4) 地方部会における学術大会、セミナー等の開催

各地方部会において地域に根ざした部会独自の企画で、春もしくは秋に学術大会ならびにフォーラム、セミナーなどを開催した。学術大会については、北海道部会は4月に第70回北海道部会秋季大会、東北部会は10月に東北部会第52回学術大会を、関東部会は12月に第61回関東部会研究発表大会を、東京部会は5月に第68回東京部会春季学術大会、11月に東京部会秋季学術大会を、中部部会は11月に第49回中部部会学術大会を、近畿部会は平成27年1月に第58回近畿部会学術大会を、中国・四国部会は10月に第55回部会学術大会を、九州部会は11月に第63回九州部会学術大会を開催した。

(5) 公開シンポジウム・公開講座の開催

平成 26 年度科学研究費補助金にて一般市民を対象とした市民公開講座を「放射線に対するリスクの正しい考え方～放射線と上手に付き合うために～」のテーマで大宮市において開催した。また、平成 26 年度市民公開シンポジウムを「肺の生活習慣病 COPD について～COPD を知っていますか？息苦しい病気はこまりますよね～」のテーマで京都市において開催した。昨年に引き続き、東日本大震災によって発生した福島原発事故による放射能汚染被害に関連して、放射能汚染に関する正しい知識の広報を目的に一般市民を対象とした市民公開講座を大宮市（既述）で、また一般市民と向き合う診療放射線技師を対象としたリスクコミュニケーションセミナーを福島市で開催した。

2. 刊行広報事業；公2

(1) 学会誌の発刊

平成 26 年 1 月～12 月で掲載論文数が 85 編（昨年と同期間で 81 編）となった。学会誌第 70 巻 1 号～第 70 巻 12 号の 12 冊（論文特集号 1 冊含む）を毎月 20 日に発行した。

(2) 英語論文誌

一般社団法人 日本医学物理学会との共同発刊で、第 7 巻 2 号を平成 26 年 7 月 20 日付で、第 8 巻 1 号を平成 27 年 1 月 20 日付で発行した。掲載論文数の合計は 47 編となった。

(3) 出版活動

放射線技術学叢書(33)「放射線治療における位置照合とセットアップの実際」、放射線技術学叢書(34)「Interventional Radiologic Technology」、放射線技術学シリーズ「X 線撮影技術学 改訂 2 版」の発刊を行った。また、放射線技術学叢書(14-4)「乳房撮影精度管理マニュアル」、放射線技術学叢書「マンモグラフィ典型症例画像データベース」を増刷した。

(4) 部会雑誌の発行

各部会において部会雑誌を発行した。北海道部会は北海道放射線技術雑誌を Vol. 76, Vol. 77 を、東北部会は東北部会雑誌第 24 号を、関東部会は関東部会誌 17 号を、東京部会は東京部会雑誌 Vol. 125, Vol. 126 を、中部部会は中部部会誌 Vol. 16 を、近畿部会は近畿部会雑誌 Vol. 20 No. 1, No. 2, No. 3 を、中国・四国部会は中四国放射線医療技術フォーラムプログラム集を、九州部会は部会誌 Vol. 13 No. 1 を発行した。

(5) 分科会誌の発行

春秋の学術大会に合わせて各分科会において分科会誌を発行した。

(6) 広報活動

ホームページ（和文）のコンテンツの更新ならびにホームページ（和文）での過去の表彰履歴の閲覧を実現した。また、重要なお知らせを効率的に掲載した。本会の海外における認知度を高めるために国内外で開催された国際会議(ECR など)で国内外に向けて広報活動を行った。一方、市民からの問い合わせに対して迅速に対応した。

科学研究費「医学物理学・放射線技術学」の創設を JSRT-JSMP 合同セミナーで広報した。

3. 研究調査事業；公3

学術調査研究班 12 班を編成して積極的な学術活動を行った。また、関係法令の改正にともない、実際に対応を図った医療機関の状況を調査し、その結果を放射化物に関する学会標準に反映して正式にリリースし、学会ホームページに掲載した。

第 70 回総会学術大会では 11 講座の「専門講座」、12 講座の「入門講座」を、第 41 回秋季学術大会では 9 講座の「専門講座」、11 講座の「入門講座」を開催するとともに各講座のコンテンツを e-learning としてホームページに掲載した。

4. 研究奨励事業；公4

規定に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞等の選考・推薦を行った。第 70 回総会学術大会において海外からの優秀な若手発表者に対して奨学金を支給した。

関東部会は、研究助成ならびに功労賞、技術奨励賞、新人賞を表彰した。中部部会は功労賞、技術奨励賞を表彰した。近畿部会は第 58 回近畿部会学術大会の優秀発表者に対して大会長賞、新人賞を表彰した。

九州部会は第70回総会学術大会での研究発表に対して助成を行った。

5. 連携交流事業；公5

(1) 国内

① 関連学協会への委員の派遣ならびに関連学協会への協力を行った。

- ・ JIRA と協力し， JIS 原案作成活動ならびに基準委員会活動としての JIS 原案審議と認証基準審議を行った。
- ・ 日本 I H E 協会等の関連学協会と連携を図り，医療情報に関する標準化にかかわる規格・コード・ガイドライン等について協議，策定を行った。

② J R C 理事会に役員を6名派遣し，学術大会開催企画に積極的に参画した。

③ 公益社団法人 日本診療放射線技師会と懇談会を2回開催し，公開合同学術セミナーを1回開催した。

(2) 海外

短期留学生の派遣(2名)，国際研究集会への派遣(6名)，本学会と交流のある海外学会への派遣(2名)，国内で開催される国際研究集会への派遣(13名)を行った。

第70回総会学術大会に中華医学会影像技術学会から役員2名，推薦会員3名ならびに一般会員1名を，大韓放射線科学会から役員2名を招聘した。また，第22次中華医学会影像技術学会総会学術大会に3名を派遣して学術交流をおこなった。さらに，ECR2014に2名を派遣してEFRS(European Federation of Radiographers Societies)と交流を行った。